

2022年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名	スポーツリテラシーⅡ（Sports LiteracyⅡ）		
ナンバリングコード	E20801	大分類／難易度 科目分野	経営経済学科 専門科目／標準レベル スポーツトレーナー
単位数	2	配当学年／開講期	2 年／後期
必修・選択区分	選択：経営経済学部 コース選択必修：情報メディア学科 情報コミュコース ※入学年度及び所属学科コースで異なる場合がありますので、学生便覧で必ず確認してください。		
授業コード	E001351	クラス名	-
担当教員名	堀 仁史、武田 正芳、吉田 明		
履修上の注意、 履修条件	1. 受講申し込み時に3, 200円（教本、保険代、教材セット等）の教材費を納付してください。 2. 実技のできる服装で受講してください。第1回ガイダンスで説明します。 出席は毎時間取ります。		
教科書	赤十字救急法基礎講習教本 日本赤十字社編集 株式会社 日赤会館発行所		
参考文献及び指定図書	「救急法基礎講習教本」および「救急法講習教本」使用（第1回ガイダンスで配布）		
関連科目	健康の科学・スポーツ科学・生涯スポーツ指導、NSCA認定校カリキュラム科目		

○基本情報		
授業の目的	赤十字救急法とは、病気やけがや災害から自分自身を守り、けが人や急病人を正しく救助し、医師または救急隊員などに引き継ぐまでの救命の手当及び応急の手当をいいます。救急法を学ぶ目的は、誰もが事故を防止し、緊急時に必要な救助や手当ができるように、正しい救急法の知識と技術を身につけることであり、人間愛に基づいてこれを行うことです。	
授業の概要	夏季集中講義（3日間）で行います。第1日目は救急法基礎講習と「理論」および「実技」を学習し、筆記試験と実技試験を実施します。合格者は引き続き、救急法講習の「理論」を受講します。第2日目は「止血法」について理論を学習した後、「包帯法」の実技を行います。第3日目は「搬送」「固定法」の理論および実技を学習した後、救急法講習の「実技試験」および「筆記試験」を行います。	
授業の運営方法	（1）授業の形式	「演習等形式」
	（2）複数担当の場合の方式	「オムニバス方式」
	（3）アクティブ・ラーニング	「実習、フィールドワーク」
地域志向科目	該当しない	
実務経験のある教員による授業科目	日本赤十字社 大分県支部職員およびボランティア指導員による指導	

○成績評価の指標		○成績評価基準（合計100点）		
到達目標の観点	到達目標	テスト （期末試験・中間確	提出物 （レポート・作品等）	無形成果 （発表・その他）
【関心・意欲・態度】	赤十字救急法に関する基礎的知識や技法を正しく理解し、災害時や事故発生時に、率先して救急法を実践できる態度と能力を養う。			30点
【知識・理解】	赤十字救急法に関する基礎的知識を正しく理解し、災害時や事故発生時に、率先して救急法を実践できる態度と能力を養う。	30点		
【技能・表現・コミュニケーション】	赤十字救急法に関する基礎的技法を正しく理解し、災害時や事故発生時に、率先して救急法を実践できる態度と能力を養う。	30点		
【思考・判断・創造】	赤十字救急法に関する基礎的知識や技法を正しく理解し、災害時や事故発生時に、率先して救急法を実践できる態度と能力を養う。	10点		

○成績評価の補足（具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法）
3日間のすべての出席（遅刻および早退も不可）をもって評価の対象とし、救急法救急員の資格試験の結果により、評価（C以上）を決定します。 試験の結果については「日本赤十字社大分県支部」が管理をするため、点数のみのフィードバックになります。 試験について不明な点は堀研究室まで質問に来て下さい。

○その他
2022年度は新型コロナウイルス感染症の感染防止対策として、履修制限を行います。 1）上限を最大で20名までとします。 2）これまでの「NSCA認定校カリキュラム」の履修状況から、本講義の履修の可否を判断します。

2022年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画	科目名 担当教員	スポーツリテラシーⅡ（Sports LiteracyⅡ） 堀 仁史、武田 正芳、吉田 明	授業コード	E001351
学修内容				
1. ガイダンス				
この授業の全体内容の説明をします。導入として、赤十字社の実施している普及事業の救急法、水上安全法、雪上安全法、家庭看護法、幼児安全法について概要を学習します。				
予習	日本赤十字社の理念や事業について理解します。			約2時間
復習	日本赤十字社の理念や事業について理解を深めます。			約2時間
2. 赤十字社救急法				
赤十字救急法とその目的や範囲及び救助者が守るべきことを学習します。				
予習	救急法全般の基礎的知識と技法について理解します。			約2時間
復習	赤十字救急法の目的や救助者の活動できる範囲について理解を深めます。			約2時間
3. 救急法実施上の一般的注意				
一般的注意として、手当の必要な場合、手当の基本、傷病者への接し方の注意、現場での留意点などについて学習します。手当の基本として、傷病者の観察、傷病者の寝かせ方(体位)、保温、加温、飲食物などについて学びます。ショックについては、ショックとその徴候、原因、注意すべきことの他、予防のための手当を学習します。				
予習	救急法実施上の一般的な注意について理解します。			約2時間
復習	救急法実施にあたっての具体的な技法について理解と技術の修得を深めます。			約2時間
4. 心肺蘇生法Ⅰ				
心肺蘇生法とその手順、重要性、必要な場合、範囲などを学習します。気道確保では、その重要性、気道閉塞の原因、気道確保の必要性とその方法を学習します。人工呼吸法では、その生理や種類、呼吸吹き込み法の実際や胃の膨らみ、器具の使用などを学習します。				
予習	心肺蘇生法の手技について理解を深めます。			約2時間
復習	心肺蘇生法の手技について理解と技能の修得を深めます。			約2時間
5. 心肺蘇生法Ⅱ				
循環の整理や心臓マッサージの種類、方法を学習します。子供に対する心肺蘇生法では、意識の確認、気道確保、呼吸の確認、人工呼吸、循環のサインの確認、心臓マッサージなどを学習します。心肺蘇生法に伴う副損傷では、気道確保を行う場合、人工呼吸を行う場合、心臓マッサージを行う場合などを学習します。気道内異物の除去では、気道内の異物やその除去の種類や方法を学習します。他に損傷を伴う場合の同時手当や心肺蘇生法が必要となる特殊な状況について学習します。				
予習	心肺蘇生法の手技について理解を深めます。			約2時間
復習	心肺蘇生法の手技について理解と技能の修得を深めます。			約2時間
6. 検定				
一次救命処置(心肺蘇生法、AEDを用いた除細動、気道異物の除去)の実技、および筆記試験を行います。合格者には赤十字救急法基礎講習修了者としての認定証を交付します。				
予習	心肺蘇生法の手技について理解を深めます。			約2時間
復習	心肺蘇生法の手技について理解と技能の修得を深めます。			約2時間
7. きずと止血				
きずの種類やきずの危険性について学びます。止血では、その仕方や実際、その他の出血の手当を学習します。各部のけがでは、頭、頸、胸、腹、手(指)、とげなどのふみぬき、釣り針を刺したとき、目、歯などのけがについて学習します。特殊なけがでは、熱傷、化学薬品がかかったとき、感電、落雷、低音による障害、咬創、毒虫等による被害などを学習します。道路上での救助作業では、救助に際しての注意やオートバイ事故とヘルメットの脱がせ方について学習します。				
予習	包帯法について、保護ガーゼや三角巾の基本的な使用方法について理解します。			約2時間
復習	きずと止血について理解を深めます。			約2時間
8. 包帯Ⅰ				
保護ガーゼ(きずの覆い)や、三角巾の使用方法などを学習します。				
予習	包帯法について、保護ガーゼや三角巾の基本的な使用方法について理解します。			約2時間
復習	包帯法について、保護ガーゼや三角巾の基本的な使用方法について理解を深めます。			約2時間

○授業計画		科 目 名	スポーツリテラシーⅡ（Sports LiteracyⅡ）	授業コード	E001351
		担当教員	堀 仁史、武田 正芳、吉田 明		
学修内容					
9. 包帯Ⅱ					
巻軸帯、応用包帯、絆創膏、ハンカチ等の使用方法などを学習します。					
予習	包帯法について、巻軸包帯、応用包帯、絆創膏、ハンカチなどの使用方法について理解します。				約2時間
復習	包帯法について、巻軸包帯、応用包帯、絆創膏、ハンカチなどの使用方法について理解と技能を深めます。				約2時間
10. 骨折					
骨折の分類、その観察や手当、固定法について学習します。前腕他各部の骨折の固定を学習します。					
予習	骨折について、その分類方法、手当および固定法を理解します。				約2時間
復習	骨折について、その分類方法、手当および固定法を理解し、技能を深めます。				約2時間
11. 脱臼等					
脱臼、捻挫、打撲、肉離、腱断裂、突き指の症状や手当について学習します。					
予習	脱臼、捻挫、打撲、肉離、腱断裂、突き指の症状や手当について理解します。				約2時間
復習	脱臼、捻挫、打撲、肉離、腱断裂、突き指の症状や手当について理解を深めます。				約2時間
12. 急病					
心臓発作・心不全、脳卒中、呼吸困難（喘息、気胸）、腹痛、痙攣、発熱・かぜ・じんましん、脳貧血、中毒、熱中症等の症状や手当について学習します。					
予習	急病を理解し、その手当と予防策について理解します。				約2時間
復習	急病を理解し、その手当と予防策について理解を深めます。				約2時間
13. 搬送					
傷病者を搬送するにあたっての注意事項や、救助者の人数の違いによるそれぞれの搬送方法について学習します。					
予習	搬送における注意事項や、その技法について理解します。				約2時間
復習	搬送における注意事項や、その技法について理解と技能を深めます。				約2時間
14. 救護					
災害時における「自助」、「共助」、「公助」について理解をするとともに、災害時や大地震発生時の心得、水害の際の心得などについて学習します。					
予習	救護におけるの注意事項について理解します。				約2時間
復習	救護におけるの注意事項について理解を深めます。				約2時間
15. まとめ					
これまでの講習内容のまとめと補足内容を学習します。					
予習	救急法についてのすべてを総合的に理解します。				約2時間
復習	救急法についてのすべてを総合的に理解し、その技能を深めます。				約2時間
16. 検定試験					
学科と実技を行います。全日程受講生には、受講証、検定合格者には、救急法救急員認定証を交付します。					
予習	基礎的知識および技法について理解し、必要な手技を身につけます。				約2時間
復習	分からなかった基礎的知識および技法について理解し、必要な手技を身につけます。				約2時間